

区立学校における DX 推進に関する取組について

区立学校における DX 推進に係る令和 8 年度のこれまでの主な取組実績及び今後の主な取組予定について、以下のとおり報告します。

1. これまでの主な取組実績

(1) 児童・生徒用タブレット端末の更新

夏季休業期間中に全 10,231 台の児童・生徒用タブレット端末を配備完了
予備機を含め、すべての端末を新世代機へ更新

(2) モバイル Wi-Fi ルータを各学校に配備

5 月に各校 1 台の Wi-Fi ルータを配備完了

(3) 液晶型電子黒板を各学校の特別教室、少人数教室に配備

夏季休業期間中に全 310 台（75 型：302 台、65 型：8 台）の液晶型電子黒板を配備完了

(4) 学校ホームページ作成支援ツールの全校導入

5 月に各校へアカウントを配布し、8 月末にかけて各校において移行実施
移行が完了した学校から順次切り替えを行い、9 月 1 日に全校新しいホームページへ切り替え完了

(5) 教職員向け ICT 研修の実施

- ① 基本操作の動画コンテンツ（メーカー公式 HP 含む）（4 月、5 月展開）
 - （ア）杉並区校務環境の概要説明
 - （イ）Outlook、Teams の基本操作説明
 - （ウ）校務支援システム、授業支援ソフトの基本操作説明
- ② ホームページ操作研修（5 月実施）
- ③ Copilot ハンズオン研修（6 月実施）
- ④ 情報リテラシー研修（7 月実施）
- ⑤ 夏季特別オンライン講座（信州大学佐藤准教授講演）（7 月実施）
- ⑥ Microsoft365 スキルアップ研修（8 月実施、2 日開催）

2. 今後の主な取組予定

(1) 区内小学校でのパイロット実証事業の実施

別紙参照

(2) 教職員の ICT スキル向上に関する取組

- ① 情報リテラシー研修や有識者による講演会の実施
- ② 教職員を対象とした活用状況アンケートの集計、分析

(3) その他

区立学校インターネット回線のアセスメント実施

区内小学校でのパイロット実証事業の実施 ～小中学校への生成AIツールの導入に向けて～



DX・議会改革に関する特別委員会資料

令和8年10月2日

教育委員会事務局学校ICT担当



- 01** **次期学習指導要領における情報教育の概要**
- 02** **杉並区立学校の生成AIツールの現状**
- 03** **リーディングDXスクールでの生成AIの活用事例**
- 04** **区内小学校でのパイロット実証事業の実施**

01 次期学習指導要領における情報教育の概要

国の中央教育審議会で議論されている、次期学習指導要領の情報教育及び生成AIに関する内容

次期学習指導要領における情報教育の概要

情報活用能力の抜本的向上

小中高を通じた育成体系が不明確であることや、他国と比べ指導内容が不十分であること等の課題から、

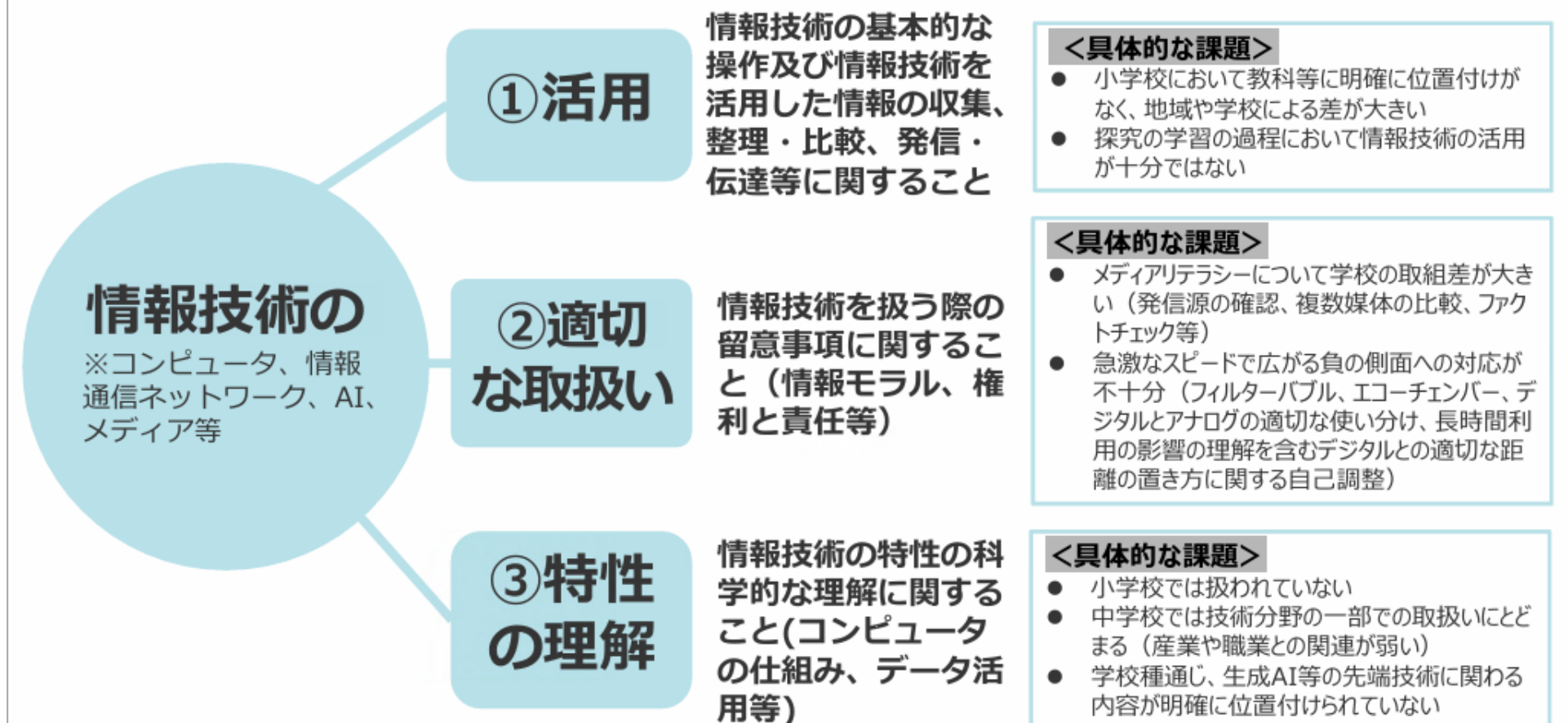
情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解の観点から総合的に整理することが重要

情報活用能力の抜本的向上に係る主な課題

補足イメージ⑥

論点整理

- 小中高を通じた育成体系が不明確であることや、他国と比べ指導内容が不十分であること等の課題を踏まえれば、情報活用能力の抜本的向上に向けた内容面の充実の方向性については、**（１）どのように情報技術の活用の実態を高めていくか**（主に①活用）、**（２）内容として不足している部分をどう充実するか**（主に②適切な取扱い、③特性の理解）という観点で総合的に整理することが重要



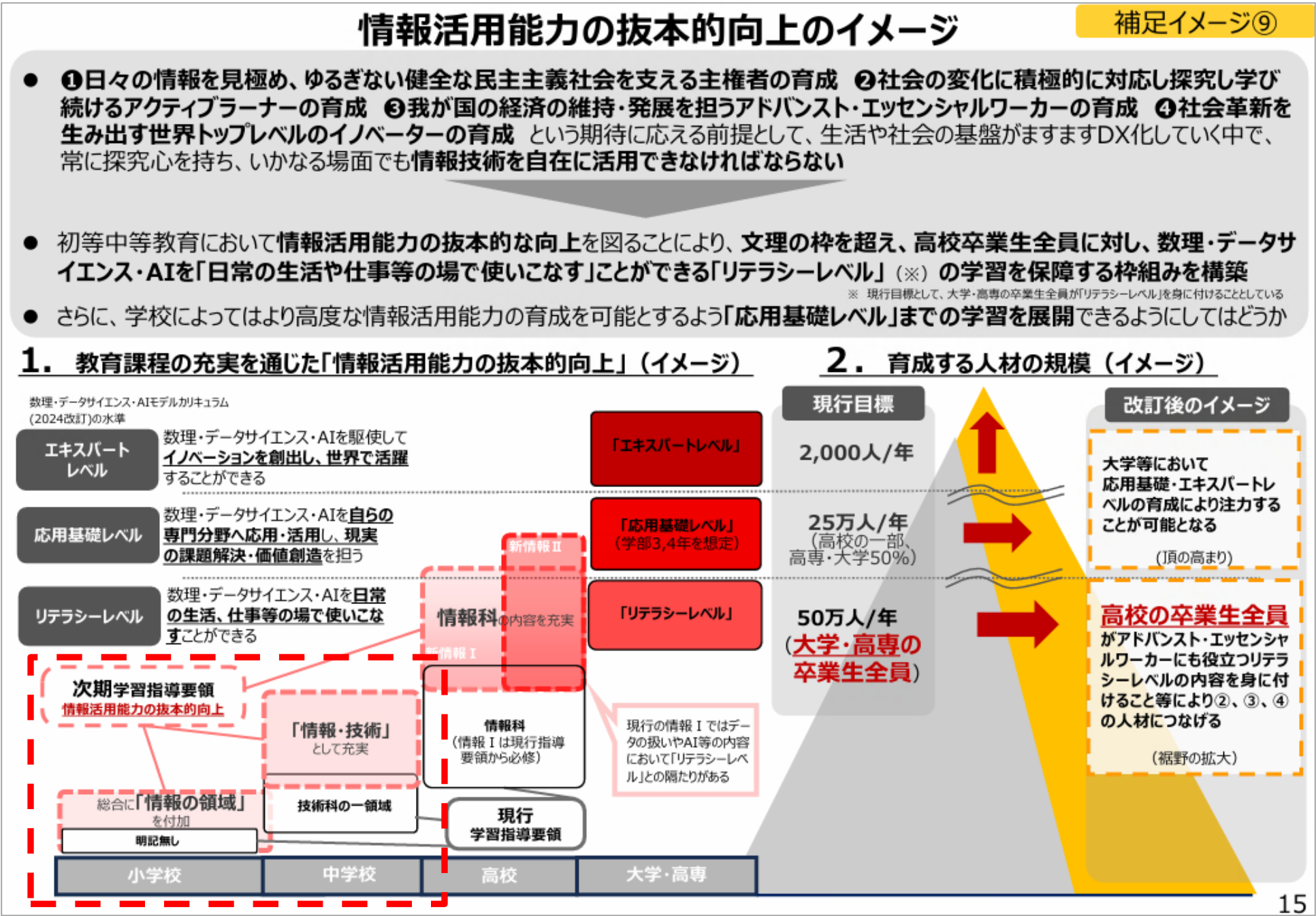
※指導体制の整備と併せて、技術の進展に伴い、教育内容が妥当性を失うことを防ぎ、教師の負担を可能な限り減らす仕組みを構築する必要

11

次期学習指導要領における情報教育の概要

新教科・領域の創設

- ・小学校 **「情報の領域」**を付加
- ・中学校 **「情報・技術科」**の創設



次期学習指導要領における情報教育の概要

情報の領域 学習イメージ（小6年）

・情報技術の適切な取扱い
AIを使うときのマナーなど

・情報技術の特性の理解
AIの体験や仕組み理解、比較など

・情報技術の活用
AIを活用した情報収集や整理・分析など



次期学習指導要領における情報教育の概要

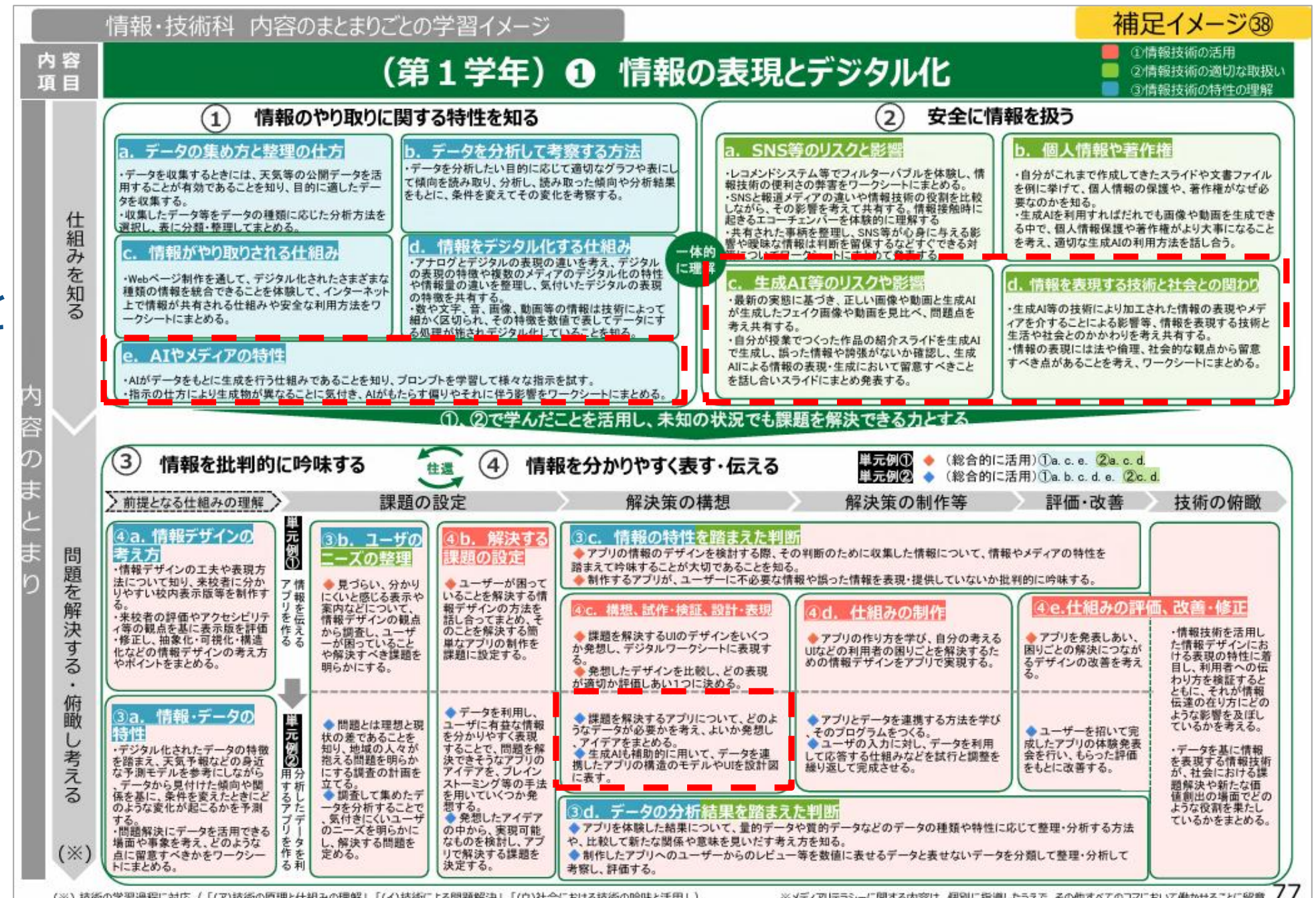
情報・技術科 学習イメージ（中1年）

・情報のやり取りに関する特性を知る

AIのデータ生成の仕組みを知り、プロンプトを学習して様々な指示を試す。など

・安全に情報を扱う

生成AI等のリスクや影響について学ぶ。また、情報を表現する技術と社会との関りについて学ぶ。など



次期学習指導要領における情報教育の概要

情報教育以外の科目での生成AI活用

- ・外国語ワーキンググループにおいては、AIの活用によりスピーキング等の練習量を大幅に増加するなどの方向性が示された。



02 杉並区立学校の生成AIツールの現状

現在、杉並区立学校で導入されている生成AIツールについて

杉並区立学校の生成AIツールの現状

導入製品

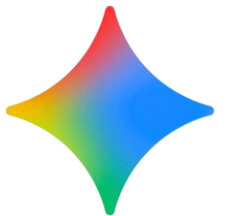
- ・現在、杉並区立学校ではCopilotとCanvaを導入。
- ・Copilotはクラス全員が利用できる学年は中学校 2 年生以上。
- ・Canvaは年齢制限はないが、主な機能が画像生成機能のみ。

製品	規約	主な機能	小学生	中学生
 Microsoft Copilot	原則：18歳以上 例外：13歳以上は一部の機能を利用可	文書生成、 画像生成等	規約上使用不可 (フィルタリング中)	2 年生以上が一部の機能を使用可
 Canva Japan Canva	年齢制限はなし	画像生成	使用可	使用可

杉並区立学校の生成AIツールの現状

代表的な生成AIツール

・現時点で、代表的な生成AIツールのうち、すべての児童・生徒が規約上使用できるのはGoogle社の提供する教育向けサービスであるGoogle for Education上で提供されるGeminiとNotebookのみである。

製品	規約	小学生	中学生
 Microsoft Copilot	原則：18歳以上 例外：13歳以上は一部の機能を利用可	使用不可	2年生以上が一部の機能を使用可
 ChatGPT	13歳以上（13歳から17歳は保護者の同意が必要）	使用不可	2年生以上が保護者の同意により使用可
 Google Gemini Notebook	原則：18歳以上 ただし教育版のみ年齢制限なし	教育版のみ使用可	教育版のみ使用可

03 リーディングDXスクールでの生成AIの活用事例

令和7年度に文部科学省により指定されたリーディングDXスクールによる生成AIを活用した授業事例

リーディングDXスクールでの生成AIの活用事例 ～沖縄県嘉手納町立嘉手納小学校の事例～

生成AIツールの使用目的

生成AI自体について学ぶ

- ・生成AIとは
- ・生成AIの注意点や気を付けること
- ・生成AIの仕組みやプロンプトの作り方
- ・生成AIのプログラム

生成AIを使って学ぶ

- ・生成AIの対話機能を利用した探究学習、自由進度学習
- ・生成AIの音声解析を利用した歌唱や音読、スピーキングの学習
- ・生成AIの単語帳や暗記カード作成機能を利用した知識学習

リーディングDXスクールでの生成AIの活用事例 ～沖縄県嘉手納町立嘉手納小学校の事例～

・Gemini Gems「歌唱ちえっくん」による音楽の個別指導（5年音楽）

先生があらかじめ入力した評価のポイントなどの必要な情報リソースを参照し、児童にフィードバックを与えるカスタムAIを用意し、児童が「歌唱ちえっくん」に自身の歌声を録音して改善できるようにしていた。

・Gemini Gems「振り返りくん」を活用した振り返り支援（4年社会）

授業で学んだことをカスタムAIに入力し、各自でフィードバックを得るという個々に応じた振り返り活動の支援を行っていた。

・Geminiによる学びの深掘り（6年社会）

授業で学んだトピックのうち、興味のあるものを生成AI「Gemini」で深掘りし、問答を通して得られた内容をクラス内で話し合っていた。

04 区内小学校でのパイロット実証事業の実施

次期学習指導要領を満たす学習指導環境を整えるため、令和8年度
12月から区内小学校でパイロット実証事業を実施

区内小学校でのパイロット実証事業の実施

- ・**実施目的**

既存システムとの連携等について委託事業者と十分な確認を行うほか、杉並区立学校の中での生成AI活用教育モデルの創出を行うため。

- ・**実施期間**

令和8年12月1日から令和9年9月30日まで

- ・**実施場所・実施対象者**

杉並区立高井戸小学校の全児童と全教職員（計 約900名）

- ・**使用する汎用生成 A I ツール**

Google for Education下のGemini、Notebook（Google Japan合同会社）

- ・**適用される主な規定及びガイドライン**

杉並区立学校情報セキュリティ実施基準、杉並区立学校生成AI活用ガイドライン

区内小学校でのパイロット実証事業の実施

・使用する汎用生成AIツールの選定理由

既に都内で約75%の児童・生徒が活用しているプラットフォーム上のサービスであり、世界的な汎用生成AIツールの中で唯一規約上、全児童生徒が使用することができ、個別（区独自）の生成AIシステム構築費用より安価であるため。

・予算額

約500万円（ライセンス費、設計費、アカウント登録等構築費など）

・実証結果の取り扱い

実証をとおして、次期学習指導要領に沿った指導が行えるように杉並区立の全小中学校、特別支援学校への導入を目指していく。

参考資料等

- 初等中等教育分科会
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/index.htm
- 教育課程部会 情報・技術ワーキンググループ
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/118/index.html
- 教育課程部会 外国語ワーキンググループ
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/108/index.html
- 情報・技術ワーキンググループ取りまとめ（案）※会議後修正
（令和8年8月4日時点の報告資料）
https://www.mext.go.jp/content/20260804-mxt_kyoiku01-000051433.pdf